

大阪市立鯨江東小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で健康に関する項目について、「(どちらかといえば) 当てはまる」と答える児童の割合を75%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で「運動することが好き」の項目について「当てはまる」が70%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた肯定的な回答の児童の割合が90%以上の現状を維持できるようにする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>③ 本年度の体力テストにおいて、特に課題のある長座体前屈とソフトボール投げの記録で前年度より上回る。 (カリキュラム改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【健康的な生活習慣】</p> <p>学期に一度の健康週間の実施や「保健だより」などの活用を通して、ハンカチやティッシュを携帯し、手洗い・うがいをする習慣が身につくように指導する。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 ○健康週間がんばりカードによる実態調査で、肯定的な回答を年度末には90%以上にする。</p> <p>○月1回の清潔調べで、「できている」と答える児童の割合をどの学級も70%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【食育】</p> <p>食事の大切さに关心が持てるよう、食に関する指導を計画的に行う。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 ○栄養教諭による授業を各学年、年に2回行う。</p> <p>○給食週間がんばりカードで「残さず食べた」と回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【体育的活動の充実】</p> <p>運動遊びに取り組める機会をできるだけ多く設け、運動が好きな児童を育てる。 (カリキュラム改革関連)</p>	
<p>指標 ○児童が運動遊びに意欲的に取り組むことができるような行事を企画し、実施する。(年2回以上)</p> <p>○継続的に運動に取り組む習慣や意欲を高めることができるような「がんばりカード」を全学年で活用する。</p> <p>○学校生活アンケート調査で、「運動することが好き」の項目について、肯定的な回答の割合を全学級で80%以上にする。</p>	A

取組内容④【体育的活動の充実】

体育の授業や児童会活動による運動遊び・P T A・地域と連携したスポーツ活動を推進することで、進んで体力づくりに取り組むことができるようとする。

(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)

指標 ○児童の水泳指導への積極的な参加

- ・夏季休業中の水泳指導に参加する児童を昨年度と同程度に保つ。

○全国体力・運動能力・運動習慣調査

- ・課題のある運動能力を高めるための取り組みを全学年で行う。
- ・「体育の授業は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合が90%以上の現状を保つ。
- ・同一集団の記録を比較し、課題のある種目を中心に前年度より体力や運動能力が向上している。

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【健康的な生活習慣】

学期に一度の健康週間には、保健便りや保健委員会からの放送で全校生に知らせたり、手洗いチェックカードの周知を図ったりすることにより、健康的な生活習慣に対する児童の意識を高めることができた。また、毎月の清潔調べの実施と担任からの児童への働きかけによって、ハンカチやティッシュを携行する児童が増え、10月には78.7%，1月には81.7パーセントの児童がハンカチとティッシュの携行については「(どちらかといえば)あてはまる」という結果になり、当初の目標を達成することができた。

取組内容②【食育】

栄養教諭による各学年2回の栄養教育推進事業や、食育だより等を活用した指導により、食に対する意識が高まった。よく噛んで残さず給食を食べるようになり、給食週間のアンケートでは、97%の児童が「残さず食べることができた」という結果だった。

取組内容③【体育的活動の充実】

学校生活アンケートでは、「運動することが好き」「どちらかといえば好き」という肯定的な回答が87.5%だった。しかし、冬の体力づくりで実施した大縄大会や学級でのみんな遊びを通して、寒い時期も運動場にでる児童が増えた。特に大縄大会は毎月実施することにより、児童自身が目標をもって取り組むことができた。

取組内容④【体育的活動の充実】

夏の水泳指導では、積極的に参加する児童も多く、地域と学校が連携して推進することができた。また、サッカー、ミニバス、バレー、ソフトボールも行い、地域と連携したスポーツに取り組むことができている。冬には、駅伝やミニマラソンに参加している児童もいる。教師がボランティアで指導にあたる等、地域と連携したスポーツ活動を支援している。

次年度への改善点

- ・ハンカチ・ティッシュの携行ができていない児童が固定化している実態があり、家庭への働きかけも必要である。その方策をどうしていくのかが今後の課題である。
- ・今後も継続指導し、食の大切さについて意識を高めたい。
- ・冬の体力づくりでは、学年によって力の差があるため開催方法を工夫してさらに積極的に取り組めるようにしたい。
- ・水泳指導だけでなく、スポーツテストの結果をもとに、本校の児童がつけていかなければいけない種目を徹底していく必要がある。
- ・年度目標と指標にズレがあったので、改善する必要がある。